

ゴッドファーザー I

THE GODFATHER

鑑賞日：2016・7・25

制作 1972年 米国

上映時間 176分

監督 フランシス・F・コッポラ

原作 マリオ・プーゾ

撮影 ゴードン・ウィリス

音楽 ニーノ・ロータ

出演 マーロン・ブランド、アル・パチーノ、ジェームズ・カーン

受賞 アカデミー作品、脚本、主演男優賞(M・ブランド)

(あらすじ)

ヴィトー・コルレオーネ(M・ブランド)の屋敷では、彼の末娘コニーの結婚式が行われていた。一族の者をはじめ、友人やファミリーの部下たち数百名が集まった。ヴィトーはゴッドファーザーと呼ばれ、闇の世界とそのファミリーに絶大の影響力を持っていた。ヴィトーのライバルのタッタリア・ファミリーを後ろ盾にするソロッツォが麻薬取引の話を持ち込むが、ヴィトーがそれをはねつけたので、恨んだソロッツォはヴィトーを襲撃し、マフィア戦争の火が噴いた。

ヴィトーの三男のマイケル(アル・パチーノ)は一家とは関係のない生き方をしていたが、怪我をして入院中のヴィトーのもとにかけつけ、そこにもソロッツォの手が回っている父親の危機を救った。しめしをつけるためには、ソロッツォだけは殺さねばならないと、その役をマイケルが買って出て、ソロッツォと悪徳警官マクラスキーを殺したあと、ファミリーの故郷、シチリアに飛んだ。コルレオーネ一家とタッタリア一家との抗争は一段と激しさを加え、ヴィトーの長男ソニー(ジェームズ・カーン)は敵のわなにはまって殺害される……

(解説)

パラマウントは原作者のマリオ・プーゾが原作を執筆中に8万ドルという安値で、映画化権を買い取っていた。小説は1969年に刊行され、1年で100万部を超すベストセラーになったが、パラマウントは1968年のマフィア映画『暗殺』の大赤字に「イタリアマフィア映画は成功しない」とみて、200万ドルという低予算で1971年に映画化に着手した。低予算だから制作費を安くするため、監督、脚本家には当時無名だった、イタリア系アメリカ人、フランシス・F・コッポラが起用された。コッポラは当時、31歳と若かったが、天賦の才能が開花して、映画史に残る歴史的名作をつくりあげた。

この映画は単なるニューヨークマフィアの争いの映画ではない。コルレオーネ一族の家族の物語でもある。家族愛を映画の中心に置くことによって普遍性を帯び、厚みのある人間のドラマとなった。映画製作の経験の浅いコッポラはベテラン映画監督顔負けのすぐれた手腕により、3時間近い大河ドラマを成功させた。時に流れるニーノ・ロータの哀愁を帯びた甘い旋律は映画にロマンチズムを加えている。娘の洗礼式の合間に他のファミリーのドンを殺していくラストシーンは、巧みなカットバックにより、衝撃的である。この映画は全米映画協会のアメリカ映画ベスト100では第2位(1位は『市民ケーン』)を占め、日本のキネマ旬報の世界ベスト200では第1位を得ている。